

## まえがき

「なんで看護師を辞めて農家になったの？」

これまでに何度も、そう尋ねられてきました。看護師として17年働き、専門性を生かして医療の現場に立ちつづけてきた私が、ある日突然、土を耕し、果樹を育てる道を選ぶ——確かに少し不思議に思われるかもしれませんが、でも、そこにはきっかけがあり、迷いがあり、そして強い思いがありました。

この本では、私が看護師から農家へ転身した道のりと、ブルーベリー観光農園を作るまでの試行錯誤の日々、そして農業と人との新しいつながりを通して感じたことを綴っています。もともと私は、「人の役に立つ仕事をしたい」と思って看護師になりました。命に向き合う仕事は、責任も重く、時には心が擦りきれぬような日もありましたが、誰かの「ありがとう」や、笑顔に支えられながら頑張ってきました。けれど、働きつづけるなかでふと、「自分の人生、このままでいいのかな」と考えるようになったのです。

そんなとき、偶然出会ったのが、ブルーベリー農園でした。青く輝く果実、美しい自然、そこに訪れる人々の笑顔……「農業って、人の心と身体を元気にできる力があるんだ」と気づかされた瞬間でした。

この本には、農地探して壁にぶつかった話や、防草シートが何度も台風でめくられて心が折れそうになった日々、ブルーベリーの魅力に夢中になって農園を立ち上げた過程、そして農福連携を通じて人と人が支え合う関係を築いていったエピソードなど、すべて実体験に基づいた話を綴っています。

農業は想像以上に体力勝負で、自然相手の厳しさに泣きたくなることもあります。でも、そこには看護師時代と同じように、「人と人がつながる力」がありました。そして何より、自分の手で何かを育て、誰かの笑顔につながっていくことの喜びは、かけがえのないものです。

この本を手にとってくださったあなたが、何かを始めようとしている人、少し立ち止まっている人、自分の道に迷っている人ならば、私は心から伝えたいのです。

「小さな一歩でもいい。完璧じゃなくてもいい。やりたい気持ちを信じてください」と。この本が、

あなたの心の背中をそっと押す存在になれたら嬉しいです。そして、読んだあとにほんの少しでも、前を向いて歩いていけるような温かい気持ちになっていただけたら、それ以上の幸せはありません。